

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		リプロセッション（谷・晃寛・正岡・山下）			公表日		2025年 3月 14日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		狭すぎず、広すぎないスペースを設定するように心がけています。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		サポーター（アルバイトスタッフ）の協力も得ながら職員の配置を行っています。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		主に絵カードなどによる視覚支援を行っています。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		安全確保に配慮して空間を設定しています。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		主におはなしの部屋（談話室）などを活用しています。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4		事業所スタッフでのミーティングにおいて全スタッフがPDCAサイクルに参画しています。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		評価後、チームで改善に努められるよう、会議を行っている。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		週に1回事業所職員でミーティングを行い、情報共有を図っています。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	第三者委員会等の機関は現時点では設けておりません。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		時に外部から講師を依頼するなどして支援方法や手法の研修を行っています。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		お子さんに合わせたプログラムを作成し、場合によってはInstagramなどを用いて公表しています。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4		日頃から、お子さんと保護者さんとの会話の中でニーズを知り、計画作成に取り組んでいます。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		週1回のミーティングに加え適宜共通理解をすり合わせる話し合いを行っています。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		個別支援計画を職員間で共有し、特に気を付けるべき点や支援方法を共有することで計画に沿った支援を行えるよう努めています。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		フォーマルなアセスメントは担当者等で情報を得て、主にインフォーマルなアセスメントを用いて適応行動の状況を把握しています。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		個別支援計画に、本人支援、家族支援、移行支援を入れて支援内容を入れています。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		事業所で月の予定を決めて取り組んでいます。そのプログラムも子どもの想いや職員の強みを活かして立案しています。			

の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	お子さんやご家族の意見も取り入れて、活動のプログラムを決めています。月ごとに内容を変更しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	お子さんによって、集団活動に取り組みが難しい場合は、個別で対応の支援しているが、集団を意識した取り組みを行っています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	毎日、支援前にミーティングを行い、お子さんに対する支援内容や状況の確認を行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	終了後は難しいため、次の日に行っています。その日に伝えておいた方がいいことや緊急のことは、当日に共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	なるべく早くに記録をとるためにスマートフォンや音声入力などを用いるなどの工夫を行っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	半年に1回以上モニタリングを行い、個別支援計画の見直しをしています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	「余暇」「創作」「自立支援」については普段のスポーツ活動等に自然に盛り込まれています。「地域との交流」については地域の施設を利用するなどしてその機会の確保に努めています。	
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	子どもの状態に応じて、オープンクエスションや場合によってはクローズドクエスションも用いて自己決定を促しています。		
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4	サービス担当者会議は、主に児童発達支援管理責任者が出席し、チームで情報交換しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	利用時に気になったことは、相談支援専門員や学校などの関係機関に情報共有しています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	学校によってまちまちですが、保護者を通して年間計画や月間計画を共有していただいています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	主に児童発達支援事業所が主ですが、情報共有を行っています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	引き継ぎ担当者等で情報共有を行っています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	現時点では、事業所間の共有で支援方法を統一することはしていますが、スーパーバイズを受けるには至っていません。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	地域の学校や保護者(PTA)と連携して、体験教室やイベント協力を通してその機会の確保に努めています。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	4	参加するきっかけがなく、なかなか参加に踏み出せていません。困難ケースでも基本は相談支援専門員との連携で対応しています。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4	連絡帳やlineなどを活用して情報共有を行っています。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	現状行っていないが、企画中です。内容としては、性教育や金銭にまつわるものなど生活に関わる事項を企画しています。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	面談の時などにお伝えしています。		
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	家族モニタリングなどを通して保護者のご意見や想いをお聞きするようにしています。子どもには活動時を中心に思いや意向を聞き取るようにしています。		

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	4		個別支援計画書は半年に1回見直しを行い、同意をいただいています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		面談以外にも日々の活動の様子を伝えた際にも、ご家庭の困りごとなどの相談もあり、助言や支援を行っています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	4		法人全体で保護者会を行うようにしており、保護者会で学校のこと、家での悩みごと等を共有したり、レクリエーションで交流する機会を設けています。	
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		事業所だけでなく、法人全体で対応するようにしており、迅速かつ丁寧に対応できるよう尽力しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4		定期的に通信のお便りを発行したり、インスタグラム等で発信しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		個人情報の漏洩が無いように努めています。個人情報が記載しているファイルなどは、鍵付きの書庫に保管しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		障害特性に応じて伝わりやすい配慮を考えて行っています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4		現状行っていないが、企画中です。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		ご家族さんには、訓練を実施する前に報告、連絡を行っています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		避難訓練ではただ非難するだけでなく、避難所での生活にフォーカスを当てて外部講師を招聘して段ボールベッドを作る活動も合わせて行いました。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	4		契約時にアレルギーの有無を把握しています。特に調理活動の際は再度確認をしています。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		契約時にアレルギーの有無を把握しています。特に調理活動の際は再度確認をしています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4			ヒヤリハット事例が発生した際は、事例検討と共有を行い、事故防止に努めています。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4			市や県主催の研修会に参加し、チームで共有し防止に務めています。また、法人として虐待防止委員会も設置しています。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4			契約時に説明し、必要に応じて保護者の同意のもと、行うようにしています。その際は個別支援計画にも記載しています。	